

## 県北地域における夏秋ギク系小ギクの長期継続出荷法

### 【1 栽培のポイント】

作 型	1			2			3			4			5			6			7			8			9					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
4月下旬定植 (慣行作型)	○	○	○	▽	▽	▽	✂	✂	---	✂	---	---	✂	---	---	●	---	---							■	■	■			
5月下旬定植																(E)	(E)	---							■	■	■			
6月下旬定植																			(E)	(E)	---							■	■	■

○:ハウス被覆    ◐:トンネル被覆始    ●:トンネル被覆終了    ▽:親株摘心    ✂:挿し芽    ✂:定植    ✂:摘心    ▽:整枝    ---:育苗期間    (E):エテホン処理    ■:採花期

図1 夏秋ギク系小ギクの長期継続出荷作型

(1) 慣行の作型に、の作型を組み合わせることにより、同一品種を8月上旬～9月上旬まで継続出荷することが可能です。

(2) 作型のポイント

5月下旬定植の作型について

- ・挿し穂は慣行作型の2番穂を使用できます。
- ・挿し芽を4月下旬に行い、発根後、5月下旬に定植します。定植後のトンネル被覆は不要です。
- ・8月下旬出荷とするためにはエテホン処理が必要です。

6月下旬定植の作型について

- ・挿し穂は慣行作型の整枝時に摘み取った側枝を使用できます。
- ・6月上旬に挿し芽を行い、発根後6月下旬に1カ所あたり3本植えとします。
- ・無摘心栽培とし、エテホン処理が必要です。

### 【2 導入にあたって】

(1) 小雨 を使って得た結果です。品種によって作期幅が変わりますので、他の品種については採花期や切花長などを検討する必要があります。

(2) 5月下旬定植用の採穂株として使う慣行作型の親株は、早期着蕾や短茎化の原因となるので、1番穂採穂後は高温管理しないよう注意します。

(3) 6月下旬定植用の苗は、セルトレイに1セル当たり3本挿しとするなど育苗培土のコスト低減に努めます。

(4) 以下の管理方法による成績です。

- ・親株管理：ハウス+内張り+トンネルの3重被覆(2月初旬開始)を行い、4月以降はトンネル除去、5月以降は内張除去。
- ・挿し芽：200穴黒色マルチに1本/穴挿し(無摘心作型は3本/穴挿し)挿し穂は、4/30及び5/11定植は1番穂、5/21及び5/30定植は2番穂、6/20定植は慣行作型の整枝時の摘除枝を用いた。
- ・栽植距離：45cm×8cm、2条植え 黒マルチ使用
- ・エテホン処理：エテホン液剤「商品名：エスレル10」の500倍希釈液を茎頂部に噴霧した(摘心時と10日後の2回散布)。

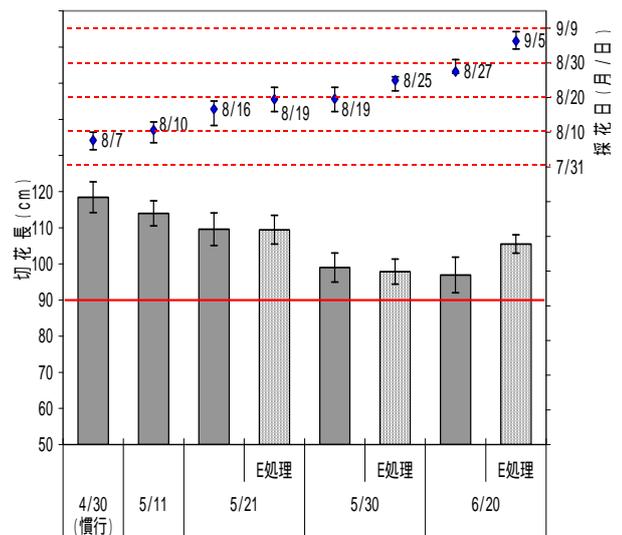


図2 定植時期の違い及びエテホン処理の有無と採花期及び切花長の関係(品種;小雨)(H20,21,22)